



戦後最大の危機からの出発 ・・・を越えて。

並河 研 オービックシーガルズGM兼監督

私たちスポーツチーム、アメリカンフットボール、あるいはオービックシーガルズというクラブの本質は何か。社会に必要なのか。そういうことが問われるシーズンが始まった――

このたびの東日本大震災において被災された皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げます。また、その後も続く甚大な影響の中で、復旧に、災害救助に立ち向かわれている皆様には、ご自愛いただくことをお願いするとともに、心より応援申し上げたいと思います。私たちも少なからず被害を受けており、グラウンド施設を共有していただいている皆様には、復旧までの間、多大なご迷惑をおかけすること、この場を借りてお詫び申し上げます。がんばろう日本、日本の底力、といったフレーズを耳に、目にするようになりました。災

害からの復興だけでなく、日本の社会や経済はこれから大きな危機に皆で立ち向かわなければなりません。一番やっかいなのは、実際にどれだけの危機なのかが想像しにくいことではないかと思えます。また、こういう時こそ、人や企業、組織の本質が現れる、あるいは問われるのではないかと思えます。

シーズンの端緒で連覇を誓う私たちですが、今年の日本一は、例年とは全く違う意味を持つことでしょう。2012年1月3日まで、厳しい、激しい戦いとなりますが、本年度もともに戦ってくださいますことをお願いします。

[フィールドレポート]

逆境をワクワク乗り越えるチームに

4月2日、被災した本拠グラウンドでチームが始動しました。3月に予定していたトライアウトも見送り、当初の予定から3週間遅れのシーズンインとなりました。現在、復旧工事を進めながら、代替練習場の確保を急いでいます。

今年も「選手が主役でワクワクするフットボール」を追求すべく、大橋ヘッドコーチは選手たちに「Independence」(自立)と「Self-Control」(自律)を求めました。個々のエンジンを磨き、この逆境を好機に変え、日本一を目指します。



「遅れた分、皆が自分の欲求と向き合えたことがきつと力になる」と古庄主将(中央)



コーチ3名が、習志野市の姉妹都市である米・タスカルーサ市のアラバマ大学を訪問

[ホームタウン活動レポート]

地元の皆さんと被災地支援

習志野市でも湾岸地域を中心に液状化の被害が甚大で、春の恒例イベントは軒並み中止となりました。私たちも月例の「フラッグフットボールで遊ぶ日」を休止とし、通常の地域活動全般を停止せざるをえない状況が続きました。一方で、チームで取り組んでいる「Gulls for Tohoku」の一環として、習志野市の街頭募金活動やチャリティイベント、災害ボランティアに参加しました。

スポーツの力で何ができるかを考えながら、地元の復興に少しでも貢献してまいりたいと思えます。



3月は選手やスタッフが、シーズンイン後はチームのOB・OGが街頭に立ちました



土砂の除去作業ボランティアに参加。フットボラーの腕力が役立ちました

[マンズリートピックス]

日韓戦にリーグ最多の11名が出場

2011年はワールドカップイヤーでもあります。2月26日、アジア予選が川崎球場で行われ、日本代表が76-0で韓国代表に圧勝。7月にオーストリアで開催される本選への進出を決めました。オービックシーガルズからはリーグ最多の11名が日本代表として出場し、続く本選の代表選出に向け、大いにアピールしました。



先発QBは菅原。古谷や萩山などオービック選手が5TDを決めました

[マンズリートピックス]

Gulls for Tohoku義援金募集

被災地東北のために、今私たちにできることは何か。そのひとつとして3月16日、チームのメンバーが被災地に向けたメッセージをそれぞれ書き、義援金受付口座を設けて広く協力を仰ぐ活動を始めました。4月12日現在、1,849,029円をお預かりしています。様々な形で本活動を長く継続していきたくと考えています。



みんなのもう1%の志を集めて復興の力に。「Will T」(¥1,500)を企画